

# 実践躬行

JISSEN KYU-KOU

じっせんきゅうこう【実践躬行】「理論や信条をそのとおりに自分自身で実際に行うこと。」(大辞林より)

突撃!  
日本を元気にする  
公認会計士へ

Engage in the Public Interest  
社会に貢献する公認会計士

No.002 2015年11月1日発行

発行元: 日本公認会計士協会  
〒102-8264 東京都千代田区九段南4-4-1  
http://www.jicpa.or.jp  
編集: 日本公認会計士準会委員会 実践躬行チーム

Profile  
No.1

あなた流の  
会計思考を  
望みます。  
高橋一夫

## 高橋先生が公認会計士人生を歩むことになったきっかけについて教えてください。

僕は比較のお坊ちゃん育ちなので、競争とか駆け引きって、性に合わない。夏目漱石の小説みたいな、孤高の世界、世間離れた世界が好きだった。それから、公認会計士っていうのは社会的かつ経済的に、独立性が高いような印象を受けていた。家業の呉服屋に税務調査があったりすると、公認会計士が出入りしていたので、小さい頃から、なじんでたところもあるのかもしれない。一番強烈だったのは、『プリズナー No.6』というイギリスで制作したテレビ映画の中で、スーパーセブンを乗り回している姿があった。そのスーパーセブンを乗り回せる可能性がある職業なんじゃないかなというふう思ったんですね。

## 新日本有限責任監査法人に入所して、すぐに塚田会計事務所に入所されたのですか。

昔は、監査法人に片足をを入れて、同時に税務事務所でもきた時代だった。上場会社の社長さんってなると、もう起業された会社を運営していく社長さんが多いんですね。ところが税務のほうはオーナー型の所が多いので、事業に対する物の考え方と責任に関しては、もっと多様性があるような感じがしていた。

監査法人の仕事とか、会社の役員とかになっていく道の人もいますけども、中にはもっと早く税務事務所を開くという人たちもいらっしやるのですよね。そうすると、やっぱりそういう多様性のある人たちに、若いうちに知り合っていたほうが、本当はいいんじゃないのかな。

## 音楽は、いつ頃始められたのですか。

ギターを初めて弾いたのは、大学のときじゃなかったかな。僕、歌うの好きだったん



で、友達にギター弾いてもらって歌ってたんですよ。高校のときは。大学行ったら、弾いてくれる人がいなくなっちゃったんで、自分で弾いたんです。あの頃ギター持っていると、もてたんじゃなかったかな。

## 監査法人に入ってから。

そう。夜な夜な、ギターが弾ける所へ行行って、歌って。そうこうするうちに、「ベース、弾けるんですけど」とか、そういう人がやって来て、バンドを作ったっていったんだけ。どんな曲をやってもズンチャカ風にアレンジできるというもので、ズンチャカおじさんって言われたんですけど。

## 仕事やプライベートの中で大切にされていることは何ですか。

話を聞いて、ゆっくり考えてっていうことをしないで、聞いたらすぐ調べるか、判断するか、ちょっと難しい問題だったら、あらかじめこれは難しい問題だっていう判断をしておく。つまり、問いかけてきた人のフラストレーションを発生させないように、できるだけスピード感を重視してやるっていうのが、私のやり方なんです。それは早かったと思いますよ、仕事は。頼まれたらすぐやっていたと思います。ただ、プライベートは、もう気に入ったことだけしかやらない。絶対に。

## 公認会計士の地域社会への貢献についてはどうお考えですか。

公認会計士としてやれるものというのは、やっぱり会計とか税務とか。他と違うのは、一応そういうことに対する知識を持っていて、実務経験があるということですね。ゴミ拾いとか、そんなのをやったら、公認会計士の仕事じゃない。

公認会計士の職業的な側面からやるとすると、個別の組織体とか、個人とかに対して情報、あるいはサービスを提供してやるということしかないかなと思うわけ。そうすると問題なのは、その時間を別のところに使えばお金がもらえるのに、こっちに対して使ってもらえないってなっちゃうと、結局もらえないよりはもらえるほうをやるということになりますよね。だから結局、有償で提供することが一番ポイントになってくるんじゃないかな。



## 高橋一夫

たかはし かずお

昭和27年 山形市に生まれる  
昭和52年 二次試験、昭和55年 三次試験  
昭和62年 システム監査技術者試験  
平成8年 現新日本有限責任監査法人の山形事務所長  
平成23年 同監査法人退職  
平成25年 日本公認会計士協会東北会会長  
現在、社外取締役、相談役、顧問

ないのかなと思ってるんですけどね。個人の申告とか、中小企業さんの申告とか、そこが一番身近ですよ。

ただ税理士がやってる税務業務と、公認会計士がやってる税務業務の印象は違う。同じことをやるにしても、公認会計士からやってもらうというのは、それはそれで価値があるような印象を持っている感じがします。公認会計士は、ただ単に税金の計算だけじゃなくて、経営的な問題も見てくれるんじゃないかみたいな、そういう期待感があるんじゃないですか。

## 公認会計士になって後悔はしていませんか。

後悔はゼロパーセントです。一つはスーパーセブンを乗り回せること。わがズンチャカバンドのマスコットカー。あと、すぐ会計って役に立つのよね。皆さん、ご存じだと思いますけれども。それから、公認会計士という社会的地位を得て、どんな人でもお付き合いできる。これはすごいと思いますね。だって、公認会計士なんですって言うだけで一目置かれるから。私を利用したいという顕在的、および潜在的な方々も存在する。それに、私の場合は公認会計士のカテゴリーをちょっとはずれてるらしいところがあるんで、それが面白いなって言ってくれる人がいる。

私が公認会計士でなかったら、こういう部分は全然なくて、ただの人よりも、もっと悪い状態になってるんじゃないかな。だから後悔はしていません。

公認会計士というラベルをはずしてもすごいなという人間でなきゃいけないんだけど、本当は、でも、その前に、やっぱり公認会計士というレッテルを張ってもらったほうがいいんじゃないの。

だから一生懸命勉強して、会計士試験受かってください。

## 若手の会計士に向けて一言お願いします。

あなた流の会計思考を望みます。会計そのものは帰納法的な考え方ですよ。事例がパッと出てきて、だんだんある一点に集約してくるみたいな考え方です

ね。でも、そういうのに慣れてると、前例を見て、自分の頭を使わないで、そのままやったら楽だって、どんどんなっていく俺がいたわけよ。

ところが、その使ったものの奥が深くて、実は絶対使っちゃいけないやつを、ただ形だけ似てるから使ってしまう場合があったりするわけ。自分で考え出したものは危ないから、あんまり使わないほうがいいなと思うこともあるかもしれないけども、逆に、あるものをそのまま使っちゃうと、後からとんでもない問題も発生する時がある。基本的には、変なことを考えたとしても、誰かに相談に乗ってもらうことによって、間違いはほとんどなくなっちゃうんだけどね。でも、いつの場合も、自分で本当にそうなのかなって考えるっていうことが、すごく大事なのかな。

## 受験生にもメッセージを願います。

例えば失敗してなれないケースもあるわけね。でも、なれなくともつぶしがきくから、ぜひ受けたほうがいいんじゃないのかなと思います。会計って一つの技術だから、やっぱりその技術は時間をかければ習得できるんで。運、不運があって試験でなかなかうまくいかない人もいかもしれないけども、勉強したことはすごく役に立つと思いますね。

## ありがとうございました。

ありがとうございます。

